めん羊の改良増殖目標の検討

平成16年10月

農林水産省生産局畜産部畜産振興課

めん羊の改良増殖目標の検討

要検討箇所(現行)	検討の方向(案)
	1.めん羊をめぐる情勢 わが国のめん羊飼育は、戦後の衣料不足と羊毛輸入の減少に伴う国産羊毛の需要増大により、昭和32年には毛肉兼用種である、昭和36年の羊毛輸入の自由化に伴う国産羊毛価格の下落等により、飼養頭数は、昭和51年に約1万頭まで減少した。その後、中山間地の地域おこしの一環として、低利用草資源の活用、食生活の多様化への対応、牧歌的な風景よる観光を変が、自動をを目的とし、肉専用種であるサフォーク種による観光の方法の(生後一年以内の羊からとれる肉)の生産が増加した。しかしながら、専用種であるサフォーを飼養であるとと中の手が大らに大きのに対する。をととして、関格・品質面でパラツキが大きのに対している。をととして、関格・品質でが、平成2年のに対したがより、平成2年のに対したがより、平成2年の影響等もあり、平成2年のに対したがより、平成2年のの世が大部のであるが、高級食材として利用されていた。このが、高級食材として利用されていたの、表別輸入停止となが高まっている。であるが、高い食材として利用されていたのでは、まり輸入停止となが高まりでは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、まり、このは、といいは、対象のは、まり、は、対象のは、対象のは、対象のでは、対象ののは、対象のののでは、対象のは、対象ののでは、対象のでは、対象のののでは、対象のののののでは、対象ののでは、対象のののでは、対象ののののは、対象ののでは、対象ののでは、対象のののでは、対象ののでは、対象のの
	2. これまでの改良の取組みと成果 (1)改良事業等の変遷 昭和初期までは、主に軍需羊毛の自給を目的とし、メリノ種 をはじめとする多くの品種が海外から導入されたが、昭和12年には 毛肉兼用種であるコリデール種が全体の7割以上を占めるに至った。
	戦後においては、海外からの種畜輸入と国(家畜改良センター)や都道府県の関係機関による優良種畜の民間への配布が行われ、産毛能力や産肉能力の向上が図られた。 昭和30年代以降、輸入羊毛に押され、めん羊は主に肉用として生産されるようになったこととから、飼養品種は肉専用種であるサフォーク種が主体となり、改良おいても産肉性、肉質が重視されるようになった。

昭和50~60年代は、大型化を図るため、アメリカ、カナダから種畜を導入していたが、スクレイピー病の発生が確認されたため、平成2~3年にかけてニュージーランドからの種畜導入が行われた。現在、それらを育種素材とした改良増殖、種畜の配布等が行われている。

(2)成果

ア 産肉能力(サフォーク種)

平均的な出荷日齢である9ヶ月齢の体重は、過去20年間において、おおむね増加傾向で推移してきたが、近年は横ばい傾向となっている。

イ 繁殖能力(サフォーク種)

一腹当たりの平均離乳頭数は、おおむね増加傾向で推移している。

(3)改良増殖をめぐる課題

産肉能力等の向上

若齢肉であるラム肉需要に対応するため、特に発育初期の 増体性の向上が重要となっており、増体性、枝肉歩留まりの向上とと もに、初期発育と関連の深い哺育能力の向上も課題となっている。

また、生産性の向上の観点から、強健なものへの改良も重要である。

優良な種雄羊の確保

飼養頭数の減少や海外からの種畜導入が困難化する中で、 純粋種の減少及び交配用の種畜が限定され、近親交配が進むことによ る影響が危惧されており、このため、国産の優良種雄羊の精液の広域 的な活用を図ることが課題となっている。

粗飼料資源を利用した生産

めん羊は、大家畜では利用が困難な未利用草地や林地の下草を活用できる利点を有しており、これらの地域での飼育拡大が課題となっている。

ラム肉の周年出荷への取り組み

近年、国産羊肉に対する需要が高まる中で、年間を通じた 安定供給に対するニーズが高まっており、季節外繁殖を取り入れた2 年3回繁殖等によるラム肉の周年出荷の推進が課題となっている。

3.改良増殖目標

(1)改良目標

粗飼料の利用性等の特性を活かしためん羊の生産に資するため、生産性の向上と斉一化に重点をおいた遺伝的能力の改良の推進と併せて飼養管理の改善を図ることとし、能力等に関する目標を次のとおりとする。

能力及び体型

ア 産肉能力に優れたものとする。

産肉能力に関する目標数値

	4ヶ月齢時体重		9ヶ月齢時体重	
	雄	雌	玄 隹	雌
現在	kg 3 8	kg 3 5	kg 5 9	kg 5 3
目標(22年度)	4 2	3 9	6 3	5 7

注:サフォーク種のものである。

イ 哺育能力等の繁殖能力を高めるものとする。

繁殖能力に関する目標数値

	1 腹当たり平均離乳頭数
現在	頭 1 . 5
目標(22年度)	1 . 6

注:サフォーク種の4ヶ月齢離乳時のものである。

ウ 強健で肢蹄が強く,粗飼料の利用性が高いものにする。

エ 体積に富み後躯が充実し、体各部の均称のとれたものにする。

(1)基本的考え方

最近の国産ラム肉に対するニーズの増大に対応するとともに、 粗飼料の利用性等の特性を活かしためん羊の生産に資するため、生産 性の向上と斉一化に重点をおいた遺伝的能力の改良の推進と併せて飼 養管理の改善を図る

(2)改良目標

能力及び体型

ア 産肉能力に優れたものとする。

産肉能力に関する目標数値(全国平均)

な	
現在 kg kg kg <u>39</u> 35 59 <u>54</u>	kg
注 目 標 : (27年度) <u>43</u> 39 63 57 サ	

フォーク種のものである。

イ 哺育能力等の繁殖能力を高めるものとする。

繁殖能力に関する目標数値(全国平均)

	1 腹当たり平均離乳頭数
現在	頭
	1 . 6
目 標 (27年度)	1.7

注:サフォーク種の4ヶ月齢離乳時のものである。

ウ 強健で肢蹄が強く,粗飼料の利用性が高いものにする。

エ 体積に富み後躯が充実し、体各部の均称のとれたものにする。

改良手法等

ア 近交の回避と不良形質の排除に努めるものとする。

イ 衛生管理を徹底するとともに、子羊の損耗の防止等により 生産性の向上に努めるものとする。

(2)増殖目標

肉利用等の需要動向に対応し、草資源等の有効利用により 飼養頭数の維持増大に努めるものとする。 改良手法等

- ア 近親交配の回避と不良形質の排除に努めるものとする。
- イ 衛生管理を徹底するとともに、子羊の損耗の防止等により 生産性の向上に努めるものとする。
- ウ 凍結精液技術の活用による優良種畜の確保や周年繁殖の推進等により、効率的なめん羊の改良・増殖に努めるものとする。

(3)增殖目標

| 肉利用等の需要動向に対応し、草資源等の有効利用により飼養頭数の維持増大に努めるものとする。